

元島民が語る「北方領土」 —高橋節子さん・小濱暁子さん—その②

択捉島での暮らしを奪われ、引き揚げさせられたお二人は、北方領土の返還を求める都民会議などへの参加を通じて、返還要求活動に参加されています。



▲お父さんが商売の傍ら団長をしていた紗那村消防団

日本に引き揚げてからの生活

樺太で待っていると、日本の宗谷丸が迎えに来ました。函館に向かったのですが、船内で赤痢が出たので注射を打つということで沖合に一週間ほど停泊していました。函館に着いたあと、母の生家のある青森県大間に引き揚げました。択捉では水産事業を営んでいましたが、船もないし、父も自分で漁をしていたわけではないので、非常に苦労していました。

引き揚げ当時は父が50歳で母が49歳でしたが、今考えるとずいぶん年をとっていた印象があります。やはり疲れていたように思います。



▲暁さんが健康優良児として表彰されたときの集合写真 1937年（昭和12年）頃

両親にとっての択捉島

両親は夫婦養子に入って択捉島に移り住みました。養子先が江戸末期からの回漕店だったのですが、父が大きく事業を拡大させ、母は6人の子供を育てました。両親は祖父への恩返しをしたいという気持ちで張り切ってやっていたのだと思います。そうやって築いた財産や事業をすべて奪われてしまったので、やはり両親としては精神的なショックは大きかったと思います。私たちは子供だったので、択捉島で両親に育ててもらっただけですが、両親はそこで苦労して自分達の手で生活を築き上げてきたのですから。

なぜ北方領土返還要求活動をするのか

先日も根室市等が主催した銀座での返還要求行進に参加しました。私たちに今できることと云ったらそれくらいしかありません。私の参加がどれほど役に立つかわかりませんが、亡くなった両親に対して、私は北方領土返還運動に参加してこういうことをしましたと報告したい。そういった思いから参加しました。

今回お話をさせていただいたのも、両親に少しでも恩返しをしたかったからです。健康状態の許す限り、都民会議への参加をはじめ、返還を求める運動に参加したいと思っています。